

日本産業衛生学会 近畿地方会ニュース

発行所 日本産業衛生学会近畿地方会
(事務局 圓藤吟史)
〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町1-4-3
大阪市立大学医学部環境衛生学教室内
FAX 06-6646-3160
発行責任者(地方会長) 堀口 俊一

第49回近畿地方会総会および特別講演のご案内

日本産業衛生学会近畿地方会 会長 堀口 俊一

日本産業衛生学会近畿地方会の総会を開催いたします。会員の多数の参加をお待ちしています。

日時 平成13年5月26日(土) 12時50分から17時まで

場所 大阪市立大学医学部学舎 4階大講義室

〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町1-4-3

●地下鉄御堂筋線・谷町線「天王寺」 ●JR「天王寺」

●近鉄南大阪線「あべの橋駅」より西へ徒歩10分

総会：12時50分～13時50分

特別講演会：14時00分～17時00分

議事

- (1) 平成12年度事業報告および平成12年度決算報告
- (2) 平成13年度事業計画(案)および平成13年度予算(案)報告
- (3) その他

テーマ「健康診断の事後措置をめぐって」

- 講演1 改正労災保険法による二次健康診断等の給付事業について
酒井 英雄 (大阪府医師会産業医部会副会長)
- 講演2 嘱託産業医としての事後措置の現状と課題
本出 肇 (大阪府医師会産業医部会常任委員)
- 講演3 保健指導基準の標準化に向けて
1) 専属産業医の立場から
本岡 康 (新日鐵(株) 広畑製鐵所)
2) 産業保健婦・看護婦の立場から
藪田 千津子 (兵庫信用金庫組合健康管理室)
- 司会・進行 河野 公一 (大阪医大・公衆衛生学)

日本医師会認定産業医制度の単位について

この特別講演は、日本医師会認定産業医制度の単位が認められています。単位取得希望者は下記所定事項を記入し往復ハガキ(上記地方会事務局)でお申し込み下さい。

往：①氏名(ふりがな) ②連絡先住所 ③連絡先TEL・FAX

④所属医師会 ⑤学会員・非学会員かを明記

復：受講票送付先の住所と宛名を明記

今回は学会員以外も受講可能ですのでご注意ください。

カリキュラム：

基礎研修 後期研修 産業医学研修手帳 項目番号(2)

生涯研修 更新研修 産業医学研修手帳 項目番号(2)

単位：3単位

日本産業衛生学会産業看護職継続教育単位認定について
実力アップコース単位認定申請中

評議員の皆さまへ

総会の前に評議員会を開催いたしますのでご出席下さい。

日時 平成13年5月26日(土)12時20分～12時50分

場所 大阪市立大学医学部学舎4階 小講義室1
地方会ニュースに同封されています総会および評議員会出欠確認用ハガキを5月15日までに必ずご返送下さい。昼食の準備はしておりませんので予めませせてご来場下さい。



総会資料

平成12年度決算及び平成13年度予算 (案)

	平成12年度		平成13年度(案)
	予算額	決算額	予算額
収入の部			
収入合計	7,811,406	8,032,430	7,176,949
前期繰越金	3,680,406	3,680,406	2,375,949
本部交付金	1,890,000	1,897,500	1,890,000
地方会費	1,700,000	1,712,000	1,700,000
利息	1,000	1,024	1,000
広告収入	240,000	210,000	210,000
雑収入	300,000	531,500	500,000
役員選挙積立金解約	0	0	500,000
支出の部			
支出合計	7,811,406	8,032,430	7,176,949
需要費合計	2,040,000	1,509,714	2,100,000
印刷費	1,000,000	671,943	700,000
備品	40,000	816	400,000
消耗品	100,000	61,903	100,000
通信運搬費	900,000	775,052	900,000
地方会運営費合計	605,000	584,894	605,000
総会費	150,000	136,732	150,000
学会費	350,000	350,472	350,000
幹事、評議員会費	105,000	97,690	105,000
部会活動費合計	200,000	200,612	200,000
産業医部会	100,000	100,472	100,000
産業看護部会	100,000	100,140	100,000
研究会費合計	440,000	292,203	440,000
研究会補助金	350,000	201,259	350,000
研修会補助金	90,000	90,944	90,000
事務局費合計	400,000	400,000	400,000
活動費合計	510,000	470,472	510,000
学術担当費	250,000	250,000	250,000
広報活動費	150,000	150,472	150,000
理事活動費	110,000	70,000	110,000
選挙費用	0	0	600,000
積立金合計	600,000	600,000	500,000
役員選挙積立金	100,000	100,000	0
記念事業積立金	500,000	500,000	500,000
事業費	1,450,866	1,450,866	500,000
第75回日本産業衛生学会開催補助金	1,450,866	1,450,866	500,000
諸雑費	100,000	72,455	100,000
予備費	1,465,540	75,265	1,221,949
次年度繰越し金	0	2,375,949	0

財産目録	1. 積立金 定期預金	3,700,000
	(第50回記念事業積立金)	2,600,000
	(役員選挙積立金)	300,000
	(H11年度役員選挙積立金)	100,000
	(H11年度第50回記念事業積立金)	100,000
	(H12年度役員選挙積立金)	100,000
	(H12年度第50回記念事業積立金)	500,000

2. パソコン Panasonic Let's Note	1台
3. " NEC98ノート	1台
4. エプソンレーザープリンター	1台
5. FAXおよびTEL回線	

事務局からのお願い

地方会費納入のお願い

- ① 地方会費は、2000円です。同封の振込用紙で郵便局から払い込んで下さい。

口座番号：00980-6-120808

加入者名：日本産業衛生学会近畿地方会

- ② 振込人と会員名が異なるときは必ず通信欄に会員名をご記入下さい。

- ③ 経費節減並びに事務処理の簡素化のため領収書は発行いたしません。振込用紙の控えを領収書に替えさせていただきます。

- ④ 総会当日、地方会費の納入を受け付けます。(領収書は地方会から発行します)

平成12年度日本産業衛生学会 近畿地方会事業報告

I. 第48回近畿地方会総会

日 時：平成12年5月26日（金）
場 所：大阪市立大学医学部学舎 4階 大講義室
出席者：463名（出席者55名、委任状408名）
会員数 1282名（平成12年5月現在）

特別講演：感染性疾患の産業保健対策について

- (1) 世界における感染症の動向
内田 幸憲（神戸検疫所所長）
- (2) 結核の蔓延状況と予防対策
青木 正和（結核予防会副会長）
- (3) 職場における感染症対策
郷司 純子（三菱重工業株 神戸造船所）
司会・進行 小泉 直子（兵庫医大 公衆衛生）

II. 第40回近畿産業衛生学会

日 時：平成12年11月18日（土）
場 所：和歌山県立医科大学学舎
学会長 宮下 和久（和歌山県立医大 衛生）
特別講演：新しいパラダイムにむけての産業保健
岩田 弘敏（岐阜大名誉教授・岐阜産保センター所長）
座長 橋本 勉（和歌山県立医大 公衆衛生）

シンポジウム：

- 21世紀の企業における健康管理のあり方をめぐって
- 北原 照代（滋賀医科大学予防医学）
茂原 治（財和歌山健康センター）
西内 恭子（榊大阪ガス・健康推進チーム）
宮上 浩史（松下産業衛生科学センター）
座長 宮下 和久（和歌山県立医大 衛生）

III. 評議員会

- 第1回 平成12年5月26日（金）大阪市立大学医学部学舎
第2回 平成12年11月18日（土）和歌山県立医科大学

IV. 幹事会

- 第1回 平成12年5月26日（金）大阪市立大学医学部学舎
第2回 平成12年8月9日（水）大阪市立大学医学部学舎
臨時 平成12年10月11日（水）大阪市立大学医学部学舎
第3回 平成12年11月18日（土）和歌山県立医科大学学舎
第4回 平成13年2月28日（水）大阪市立大学医学部学舎

V. 近畿地方会ニュース

- (1) 近畿地方会ニュース第42号 平成12年5月1日
- (2) 近畿地方会ニュース第43号 平成12年7月15日
- (3) 近畿地方会ニュース第44号 平成12年10月15日
- (4) 近畿地方会ニュース第45号 平成13年1月15日

VI. 産業医・産業看護部会

(1) 第5回近畿産業医・産業看護協議会

日 時：平成12年7月6日（木）
場 所：大阪府医師会館
メインテーマ：21世紀に向けた健康支援
特別講演：これからの健康支援と産業保健センター
莊司 榮徳（千葉産業保健推進センター）
座長 高山純一（NTT西日本大阪中央健康管理センタ）
シンポジウム：
産業構造の変化への対応と安全衛生配慮義務
茂原 治（財和歌山健康センター）
鈴木 純子（日本IBM大阪健康開発支援センター）
西野 方庸（連合大阪労働安全衛生対策会議事務局）
座長 住野 公昭（神戸大学医学部公衆衛生学）
大脇多美代（富士銀行大阪健康管理センター）

参加者数 274名

(2) 第5回近畿産業医部会研修会

日 時：平成13年2月3日（土）
場 所：大阪市立大学医学部学舎
メインテーマ：いわゆる過労死をめぐって
特別講演：
産業医が知っておきたい労働災害補償制度の実態
車谷 典男（奈良県立医大 衛生学）
座長 引石 文夫（大阪市交通局健康管理室）
シンポジウム：いわゆる過労死をなくすためには
伊藤 正人（松下電子工業株高槻地区健康管理室）
山本 博敏（西日本電信電話株人事部厚生部門）
中桐 孝郎（日本労働組合総連合会雇用・労働対策局）
星田 四朗（大阪労災病院循環器内科）
座長 杉本 寛治（滋賀産業保健推進センター）

参加者数 412名

(3) ケースカンファレンス・ケーススタディ研修会

- ① 日 時：平成12年8月23日（水）
場 所：大阪産業保健推進センター
- ② 日 時：平成12年11月9日（木）
場 所：天満地域産業保健センター
- ③ 日 時：平成12年12月13日（水）
場 所：大阪産業保健推進センター
- ④ 日 時：平成13年2月14日（水）
場 所：茨木地域産業保健センター

(4) 産業看護職継続教育 実力アップコース

日 時：平成12年8月9日(水)、25日(金)、9月29日(金)

場 所：大阪産業保健推進センター

テーマ：産業看護技術—ケアコーディネーション

小西 美智子 (広島大学教授)

参加者数 34名

(5) 産業看護部会平成12年度特別研修会

日 時：平成12年12月19日 (火)

場 所：大阪産業保健推進センター

テーマ：企業とエイズ問題—現状と対策—

橋本 博 (海外渡航者健康管理協会会長)

参加者数 34名

(6) 産業看護部会平成12年度後期研修会

日 時：平成13年3月7日 (水)

場 所：大阪府立女性総合センター

テーマ：メンタルヘルス・ケア—ケース記録とシ

ステム構築について—

前久保 邦昭 (前久保クリニック院長)

参加者数 88名

VII-1. 産業衛生講座—講習会—

第13回

日 時：平成12年4月1日 (土)

場 所：大阪府医師会館

(1) 生活習慣病と作業関連疾患

(肝疾患・消化性潰瘍)

房本 英之 (東大阪市立総合病院院長)

(2) 生活習慣病と作業関連疾患 (循環器疾患)

山田 義夫 (大阪労災病院副院長)

(3) 生活習慣病と作業関連疾患

(高尿酸血症・高脂血症・糖尿病)

岡田 章 (丸紅大阪健康開発センター所長)

受講者数 322名

第14回

日 時：平成12年5月20日 (土)

場 所：大阪府医師会館

(1) 健康管理のすすめ方

中西 範幸 (大阪大学助教授)

(2) 産業保健と感染症対策

インフルエンザ対策を中心に

廣田 良夫 (大阪市立大学教授)

受講者数 331名

第15回

日 時：平成12年9月9日 (土)

場 所：大阪市立大学医学部学舎

(1) 産業保健を総括する 過去—現在—未来

堀口 俊一

(近畿地方会会長・大阪市大名誉教授)

(2) 国際的産業保健

住野 公昭 (神戸大学教授)

(3) 経験的産業医学から事実に基づく産業医学へ

—硫酸製造工場プラントにおける急性水銀の事例検討—

小泉 昭夫 (京都大学教授)

受講者数 283名

VII-2. 産業衛生講座—実地研修—

第1回、第2回

日 時：平成12年4月18日 (火)、19日 (水)

場 所：日立造船堺工場

神原 英樹 (堺工場 産業医)

受講者数 46名、48名

第3回、第4回

日 時：平成12年7月19日 (水)、27日 (木)

場 所：産業安全研究所 大阪産業安全技術館

荒井 喜久男

(社団法人産業安全技術協会 関西事務所長)

受講者数 101名、105名

第5回、第6回

日 時：平成12年8月2日 (水)、9月6日 (水)

場 所：株クボタ 堺製造所

松本 維明 (堺工場 診療所所長)

受講者数 89名、89名

第7回、第8回

日 時：平成12年11月9日 (水)、15 (水)

場 所：シャープ株八尾工場

大森 文夫

(シャープ健保組合八尾健康管理室産業医)

受講者数 58名、59名

VIII. 研究会活動

(1) 第5回・6回労働衛生法制度研究会

平成12年6月10日 (土) 大阪府立公衆衛生研究所

平成12年12月2日 (土) 近畿大学会館

(2) 第41回じん肺研究会

平成12年7月29日 (土) 神戸労災病院

(3) 生物学的モニタリング・バイオマーカー研究会

平成12年10月6日 (金) 松下電器松心会館

(4) 産業衛生技術研究会

平成12年9月14日 (水) アピオ大阪

(5) 第42回産業精神衛生研究会

平成13年3月3日 (土) 大阪府医師会館

平成13年度日本産業衛生学会 近畿地方会事業計画 (案)

I. 第49回近畿地方会総会

日 時：平成13年5月26日(土)
場 所：大阪市立大学医学部学舎 4階大講義室
(本紙第1頁参照)

II. 第41回近畿産業衛生学会

日 時：平成13年11月10日(土) 9:30~16:30
場 所：京大会館
学会長 小泉 昭夫(京都大学環境衛生学)

特別講演

- (1) 代替フロンによる健康障害
大前 和幸(慶応大学教授 衛生・公衆衛生)
- (2) アスベスト塵肺の近年の知見
井口 弘(兵庫医科大学教授 衛生)

III. 評議員会

第1回 平成13年5月26日(土) 大阪市立大学医学部学舎
第2回 平成13年11月10日(土) 京大会館

IV. 幹事会

第1回 平成13年5月26日(土) 大阪市立大学医学部学舎
第2回 未定
第3回 平成13年11月10日(土) 京大会館
第4回 未定

V. 近畿地方会ニュース

- (1) 近畿地方会ニュース第46号 平成13年5月1日
- (2) 近畿地方会ニュース第47号 平成13年7月15日
- (3) 近畿地方会ニュース第48号 平成13年10月15日
- (4) 近畿地方会ニュース第49号 平成14年1月15日

VI. 産業医・産業看護部会

(1) 第6回近畿産業医・産業看護協議会

日 時：平成13年6月23日(土)
場 所：ドーンセンター
メインテーマ：

21世紀の健康づくり-企業からみた健康日本21-
基調講演：健康日本21のあらまし

芝池 伸彰(厚生労働省大臣官房参事官)
座長 佐野 敦(松下電子部品株式会社健康管理室)

シンポジウム：

健康日本21を企業の健康づくりに如何に活かすか
日高 秀樹(三洋電機連合健康保険組合保健医療センター)

岡山 明(岩手医科大学医学部衛生学公衆衛生学)
朝枝 哲也(財京都工場保健会産業保健部)
佐々木博子(JR西日本福知山鉄道健診センター)
座長 圓藤 吟史(大阪市立大学医学部環境衛生学)
植本寿満枝(日本予防医学協会)

(2) 第6回近畿産業医部会研修会

調整中

(3) ケースカンファレンス・ケーススタディ研修会

調整中

(4) 近畿産業看護部会平成13年度特別研修会

日 時：平成13年11月予定
テーマ：企業とエイズ問題

(5) 近畿産業看護部会平成13年度後期研修会

日 時：平成14年2月予定
テーマ：快適職場づくりへの支援

VII-1. 産業衛生講座-講習会-

第16回

日 時：平成13年6月9日(土)
場 所：大阪市立大学医学部学舎 4階大講義室

- (1) 労働衛生に於ける予測医療について
酒井 敏行(京都府立医科大学教授)
- (2) 中小企業の健康管理のあり方
古木 勝也(京都工場保健会 健康開発部次長)

第17回

日 時：平成13年9月1日(土)
場 所：神戸クリスタルタワー 3階ホール

- (1) 金属による健康障害とその予防(仮題)
井口 弘(兵庫医科大学教授)
- (2) 健康診断とその事後措置(仮題)
土屋 五郎

(三菱重工株神戸造船所三菱神戸病院名誉院長)

第18回

日 時：平成13年10月13日(土)
場 所：大阪市立大学医学部学舎 4階大講義室

- (1) 海外勤務者の感染症対策(仮題)
西山 利正(関西医科大学教授)
- (2) 産業医活動の実際(仮題)
山田 誠二(松下産業衛生科学センター副所長)

VII-2. 産業衛生講座-実地研修-

第1回、第2回

日 時：平成13年8月8日(水)、23日(木)
場 所：大阪産業安全技術館

荒井 喜久男

(社団法人産業安全技術協会関西事務所)

VIII. 研究会活動

(1) じん肺研究会

平成13年7月28日(土) 国立療養所近畿中央病院

(2) 労働衛生法制度研究会

平成13年6月2日(土) 大阪ガーデンパレス

テーマ：労働科学の歴史・理論・実際
-暉峻義等・桐原葆見の学問と思想-
裴 富吉(大阪産業大学教授)

(3) 産業精神衛生研究会

平成14年3月2日(土) 全国研究会と共催

(4) 職業性筋骨格系障害研究会

平成13年8月開催予定

報 告

近畿産業看護部会
平成12年度後期研修会 (13.3.7) に参加して

大阪鉄道病院保健管理部 吉田広子
テーマ「メンタルヘルス・ケア、効果的なケース記録
とシステム構築について」

2000年8月に労働省より「事業場における労働者の心の健康づくりのための指針」が策定され4つのケアが推進されている。また中高年自殺者の増加もありメンタルヘルスへの取り組みは重要な課題になっている。このような背景の中で今回のテーマが取り上げられた。3名の産業看護職に話題提供をして頂き前久保邦昭先生(前久保クリニック院長)に講評と講義を頂いた。その概要は、

1. 事業主を巻き込んだ心の健康づくり計画の必要性。
事業主や企業幹部の認識を高めるアプローチが大切。所属長と定期的な連絡会を持つ。
2. リスクマネージメントシステム構築
目標・計画→実施→評価・改善を行う時、客観的な評価基準がポイントとなる。
3. 環境整備として記録の定型化、判定システムの作成が必要(法律的問題点、プライバシー保護の範囲、安全配慮義務等においても)。社会資源(社外カウンセラー等)の活用。
4. 正確な記録をとる事によりフォローが容易になり、情報開示で役立つ事もある。記録はその人の心、不安など抽象的なものをいかに客観的に記入するかが非常に難しい。しかしありのままを記録し、その積み重ねが客観的な記録になる。
5. フローチャートの確立と運用において形だけではうまく機能しないことも多い。大切なのは個人的な信頼関係が基本となってメンタルヘルス活動が成り立つという事である。

メンタルヘルスへの支援活動を展開するにあたり何をどうすれば良いかをつかむことができた。

第5回近畿産業医部会研修会を開催して

大阪市交通局健康管理室 引石文夫

第5回近畿産業医部会研修会が平成13年2月3日(土)に大阪市立大学学舎にて盛会裡に開催された。当日の参加者は412名のうち日本産業衛生学会員は64名であった。土曜日の開催にもかかわらず、遠く熊本からの参加者もあり、産業医学研修に対する熱意が感じられた。

今回のテーマは「いわゆる過労死を巡って」と産業医部会幹事会で決定され、岡田章部会長より筆者が実行委員長に任命された。平成7年に「脳血管疾患や虚血性心疾患等の認定基準」が示され、認定件数も平成7年度には76件と倍増し、その後落ち着きを見せているものの精神性疾患に伴う自殺については、電通事件で見られるようにその範囲が広まっていく可能性があると思われる。こうした流れを受けて、過労死そのものを議論することよりも過労死をなくすためにはどうすればよいかを考えていきたいと思い開催することになりました。特別講演は奈良県立医科大学衛生学教授の車谷典男先生に「産業医が知っておきたい労働災害補償制度の実際」というテーマでお願いした。シンポジウムは「いわゆる過労死を巡って」というテーマで産業医の立場から伊藤正人先生(松下電子工業株高槻地区健康管理室長)に、人事・労務の立場から山本博敏氏(西日本電信電話株人事部厚生部門長)に、労働組合の立場から中桐孝郎氏(日本労働組合総連合会雇用・労働対策局労働安全衛生対策担当)に、臨床医の立場から星田四朗先生(大阪労災病院循環器内科部長)に演者をお願いした。討論では、車谷先生にもご参加していただき参加者からの質問内容を中心に活発な意見が出て意義深いものとなった。参加者の皆様には今後の産業医活動に資するところが多かったのではないと思われる。

演者・座長の皆様、最後までシンポジウムに参加いただいた受講者の皆様に感謝いたします。最後になりますが、研修会の運営にあたっては、部会長でもある丸紅大阪健康開発センターの岡田章所長、細岡様及び清田郁子先生はじめ大阪市立大学環境衛生学教室の皆様にご多大なご協力を賜ったことを深謝して稿を終えます。

私たちはめざします。健康の創造を！

定期健康診断から成人病健診・人間ドックまでトータルヘルスケア



KKCネットワーク

■滋賀事業部	077-551-0500
■彦根事務所	0749-22-8089
■京都事業部	075-662-7692
■大阪事業部	06-6304-1532
■兵庫事業部	078-230-7530
■三重事業部	059-225-7426
■名古屋事業部	052-735-0821
■関東事業部	047-358-8274
■事務局	077-525-3233
■公益事業部	077-525-7744

<http://www.zai-kkc.or.jp/>

厚生労働大臣認可 労働者健康保持増進サービス機関
KKC 財団法人 近畿健康管理センター



報 告

第42回産業精神衛生研究会を開催して

第42回産業精神衛生研究会会長 夏目 誠

産業衛生学会第42回産業精神衛生研究会が近畿産業医部会の支援を得まして、夏目大阪府立こころの健康総合センター部長を会長として、3月3日（土曜日、医師会館）に、390名の多数の参加者を得て行われました。まず、藤木幸雄理事長の励ましの挨拶がありました。一般演題は4題あり、この演題にこそ、時代の流れやオリジナリティが現われます。まず、加藤悦子（富士通KKカウンセラー）さんは、ロールシャッハを用いて、所見から得られたPositiveな面に焦点をあてた面接の成果を、現場で日々活躍されている吉田靖子（ダイフク健康保険組合）保健婦さんは、「新入社員のストレス調査結果」を実践的な角度から報告をし、「嘱託産業医が関わったメンタルヘルス不全事例の経験」を柏測信子（リケン柏崎事業所）産業医が、岩城都子（武蔵野女子大学院生）さんが「経営者の東大式エゴグラムにあらわれる性格特性とタイプA傾向・ストレス特性についての検討」について発表をし、活発な質疑応答がありました。

特別講演として乾正こころの健康総合センター所長が、「初老期うつ病」と題して中高年者に多く見られる病気に関して、事例を交えて、お話しをしていただきました。

シンポジウムは、「事業所内におけるメンタルヘルス事例の展開—適切にいったケースと不本意に終わったケース—」で、シンポジストとして、精神科医の立場から夏目が、カウンセラーの立場から、福井城次（富士通KKメンタルヘルスサービス部長）先生が、保健婦の立場から、住友金属工業KKの栗岡往子さんが報告をし、指定発言として、前久保邦昭先生（前久保クリニック院長）が総括をしました。フロアーから活発な質問が出て盛り上りました。4人くらいの産業医の先生方から、「事例が良かった。実際、現場では事例で上手くいかないものも結構あり、それを再確認でき、安心した。あるいは、事例の反省点が参考になった」、と言う意見が寄せられました。

教育講演Iとして、永田頌史産業医科大学教授が「職場のメンタルヘルスと事業者責任」、と題して系統的な講演をされ、IIとして、「職業性ストレスと心の健康づくり」と題して、川上憲人岡山大学医学部衛生学教授の講演がありました。複数の保健婦さんから、「法律的な事を含め、頭の整理につながった。あるいは労働省の4つのケアやストレス調査の現代的な方向性や流れがつかめた」、と言う意見がありました。

今回は来年3月に、永田産業医大教授が会長で、福岡市にて開催される予定です。



註）夏目誠先生は4月1日より大阪樟蔭女子大学人間科学部心理学講座教授に就任されました。

第75回日本産業衛生学会の開催準備の進捗状況

神戸大学大学院医学系研究科環境応答医学講座
環境医学・公衆衛生学 西尾久英

2002年の第75回日本産業衛生学会は神戸で開催されることが決まり、私どもの教室が中心となって学会の企画運営を担当することになりました。2001年1月26日に企画運営委員会（住野公昭委員長）が開かれ、学術委員会（徳永力雄委員長）、実行委員会（住野公昭委員長）が組織されました。以後定期的に学術委員会、実行委員会が開かれて、学会の企画運営に関する具体的な内容が順次審議され決定されていく予定です。

【決定事項】

会期：日本産業衛生学会2002年4月9日（火）～4月12日（金）、特別研修会4月13日（土）

会場：神戸国際会議場、ポートピアホール

行事日程：4月9日（神戸国際会議場）評議員会、自由集会
4月10日（神戸国際会議場）シンポジウム、一般口演、ポスター発表、自由集会、（ポートピアホテル）ウェルカムパーティー
4月11日（ポートピアホール）総会、特別講演、メインシンポジウム、奨励賞受賞講演、（ポートピアホテル）懇親会
4月12日（神戸国際会議場）シンポジウム、一般口演、ポスター発表、自由集会、地域交流集会

【審議事項】

学術委員会では、現在、メインテーマ、シンポジウム・特別講演のテーマについて審議が進められています。議論の中心になっているのは（1）IT 情報関連、（2）危機管理、（3）職域・地域保健、（4）メンタルヘルス、（5）神戸と震災復興などのトピックであります。本ニュースのつぶやきコーナーで、私たちが学術委員会に提出した「叩き台」資料の概要を示しました。

実行委員会では、現在、学会アナウンスの方法（産業衛生学会雑誌、他）、演題の申込み方法（郵送申込み、インターネット申込み）、学会会場の割り振りについて審議が進められています。

■ヘルシーカンパニー事業

- ストレスチェック
- 職場診断
- 管理職のための
ストレスマネジメント研修
- 一般社員のための
メンタルヘルス研修

■データベース事業

- データベース作成サービス
- パソコンソフト「ヘルシーWin」
- インターネットサービス

財団法人 日本予防医学協会 <http://www.sunnet.or.jp>

本部 東京都江東区扇橋 1-21-25 TEL03-3649-3651
関西支部 大阪市北区西天満 5-2-18 TEL06-6362-9041
西日本支部 福岡市博多区博多駅前 3-19-5 TEL092-473-0547
名古屋出張所 名古屋市東区代官町 39-18 TEL052-931-0526

お知らせ

第41回近畿産業衛生学会概要 (第一報)

- 学会長：小泉 昭夫 (京都大学大学院医学研究科・社会健康医学系専攻・環境衛生学分野教授)
- 日 時：平成13年11月10日 (土) 9:30~16:00
- 場 所：京大会館 102号室、211号室、212号室、210号室 (JR京都駅下車、206番京都市バス30分京大正門前下車5分、京阪丸太町下車、10分)
- プログラム (案)
 - 午前：一般演題 (3会場を予定)
幹事会および評議員会
 - 午後：特別講演
 - 1. 代替フロンによる健康障害 (1時間)
講師 大前 和幸 先生
慶応大学医学部衛生学公衆衛生学講座教授

2. アスベスト塵肺の近年の知見 (1時間)

講師 井口 弘 先生

兵庫医科大学衛生学講座教授

- 学会終了後懇親会を予定しています。
- 日本医師会産業医生涯研修単位認定を申請予定
- 日本産業衛生学会産業看護職继续教育 (実力アップコース) 単位認定申請予定
- 演題募集要項は地方会ニュース7月号に掲載、抄録締め切りは9月上旬を予定
- 学会事務局連絡先：
 - 京都大学大学院医学研究科・社会健康医学専攻・環境衛生
 - 〒606-8501京都市左京区吉田近衛町
 - 第41回近畿産業衛生学会事務局 吉永 侃夫
 - 電話075-753-4463 FAX075-753-4458

第6回近畿産業医・産業看護協議会

日時：平成13年6月23日 (土) 13:00~16:30

会場：ドーンセンター (大阪府立女性総合センター)

(京阪天満橋駅、地下鉄谷町線天満橋駅①番出口から東へ徒歩約5分 または JR東西線大阪城北詰駅②号出入口から西へ徒歩約8分)

メインテーマ：

21世紀の健康づくり-企業からみた健康日本21-

基調講演：健康日本21のあらまし

講師 芝池 伸彰

厚生労働省大臣官房参事官 (健康担当)

シンポジウム：

健康日本21を企業の健康づくりに如何に活かすか

日医認定産業医 基礎後期/生涯専門3単位

日本産業衛生学会産業看護実力アップコース申請中

募集人員：500名

受講料：3,000円

申込方法：近畿産業医・産業看護協議会受講希望と明記の上、①氏名②所属③所属医師会④連絡先郵便番号、住所 (自宅又は勤務先かを記入) ⑤電話番号⑥FAX番号⑦学会員か非学会員かを楷書で記載し、FAXか郵送でお申し込み下さい。電話でのお問い合わせ・お申し込みはご遠慮下さい。なお定員超過の為ご参加いただけない場合のみ連絡致します。

(4月1日より受付中)

申込先：〒571-8506大阪府門真市大字門真1006

松下電子部品株式会社健康管理室

実行委員長 佐野 敦

FAX06-6907-4775

第7回近畿地方会労働衛生法制度研究会

日時：平成13年6月2日 (土) 14:00~17:00

場所：会場：大阪ガーデンパレス 4階会議室

(新大阪駅より徒歩10分、シャトルバス有)

大阪市淀川区西宮原1-3-35

連絡先：大阪府私立大学連絡会事務局

共済業務課 (06-6393-9701)

講師：裴 富吉 (BAE Boo-Gil)

大阪産業大学教授 (経営学者・経済学博士)

講演：労働科学の歴史・理論・実際

- 暉峻義等・桐原葆見の学問と思想 -

・経営学者である裴先生の最近のご著書『労働科学の歴史』白桃書房 (1997年)『労働科学の理論と実際-産業心理学者 桐原葆見の学問と思想』批評社 (2000年)の内容を基礎に、わが国の労働科学の歴史・理論・実際と、経営学者としてのお立場から、幅広いお話を伺います。

・労働科学はわが国の安全衛生問題の科学的実証研究分野として重要であり、その分野の開拓者である二人の学者の思想史的研究成果を知ることは安全衛生問題を取り組む者や今後の労働衛生法制度を考える者にとって、それらの根本原理を知ることであり、不可欠なものです。

・先生は、労働科学という文系理系両分野に跨る研究分野のわが国における特質、問題点、背景思想等を語ることのできる数少ない研究者あり、今回は、こうした点を、解りやすく、しかも幅広い視点から語って頂きます。

万障お繰り合わせ、お誘いの上、ぜひご参加ください。

会場世話人：三柴 丈典 近畿大学法学部講師

TEL06-6721-2332 (3514)

近畿地方会労働衛生法制度研究会事務局 西山勝夫

〒520-2129 大津市瀬田月輪町

滋賀医科大学予防医学講座

電話/FAX077-548-2187

近畿の産業保健活動—京都府—

京都府医師会産業保健担当理事 朝枝 哲也



現在、京都府医師会会員約4,100名のうち、約700名が認定産業医資格を取得している。日本医師会会員15万5千人中、約3割が認定産業医であることを考えれば、京都府医師会における認定産業医の比率である17%という数字はまだまだ拡大の余地があると言えよう。それはそれとして、この700名の内訳としての地域産業保健センター、あるいは地域医師会毎の所属産業医数からある特徴を掴むことができる。府下の都市部である京都市域では全般に会員の認定産業医資格取得率は低い(15%)。さらに大病院所属の産業医が多いため、これらの所属する地域に多くの産業医が偏在し、都市部一般開業医の資格取得率は更に低い。片や郡部においては概してその産業医資格の取得比率は高い(20%)。特に京都府北部においての比率はとりわけ高く26%という数値を示している。

ご承知のように京都府は都道府県の中でも珍しい人口分布を示す地域である。概数で述べると263万人府民に対して府庁所在都市である京都市には146万人の人口が集中している。この5割半ばを超える集中度は2位以下の30%台を大きく引き離し全国で抜きん出て高い。医師の数においてはさらに一極集中が激しく、実に会員の7割が京都市に集中している。当然、事業所の数として例外ではなく、農業や工業といった産業構造の違いを考えるとその集中度はなおさらである。このことは行政施策や産業構造を始め医療面にも様々な影響を及ぼしている。

管見な考察ではあるがこれらを考え併せると、都市部では産業が集中するにも係わらず、認定産業医数が少ないことから産業保健分野を得意として産業医活動を積極的に担うグループと、全く産業保健活動に縁のないグループとの二極に分化していることが考えられる。換言すれば役割分担ということになるのか。これに対し郡部の過疎地においては少ない医師で何もかも賄う体制が、産業保健においても例外ではなく、オールマイティーな役割を求められる医師が各々の努力によってそれを支える姿が浮き彫りとなる。前述の北部と南部の違いは南部が大阪圏に近く準都市化する地域であることに比し、北部が純粹の意味での過疎地域であることに依拠しているのであろう。過疎地医療の問題は京都に限ったことではないが、府内の人口集中度に着目した場合、より、その格差が色濃く投影されると言えるであろう。

これらのことはこれまで京都府医師会が行ってきた産業医研修会の在り方にも反映されている。産業医比率の高い北部地域においては必然として研修会開催の要望は大きいのであるが、京都市域とは遠隔という条件が課せられているため、現地での開催が望まれるのである。結果、講師を北部に派遣し研修会を開催することが毎年の慣例となっている。

話は違うが教育研修に関して言えば、近年、産業医資格所持者の学校医選任が促進されていることはよくご存じのとおりである。平成12年度には、産業医として学校医もしくは今後学校医と成り得る医師を対象に、学校における産業保健活動についての研修会を開催した。これは学校を研修会場とした京都府医師会産業医部会としては嚆矢となる試みであった。厨房における安全衛生の観点から、学校医による現場視察を実習として習得していただくことを目的とした催しであり、学校の厨房という狭小な開催場所のため少数の参加に限られるが有意義な研修会であり好評であった。

今後、このような新たな取り組みや、先程の地域性を勘案した取り組みに加え、多様化する産業形態に応じた保健活動をきめ細かく行うための、多様化した研修内容を考慮していかねばならないと考えている。しかしながら、講師の選任に際して偏り勝ちになることは京都府医師会としてご多分に洩れずであり、メニューには自ずから限界がある。例えば昨今のグローバル化の中での外資流入は時代の趨勢であるが、外資系企業での産業保健への取り組みを考えた場合、京都府内での講師や事業所の選定には困難なものがある。幸いにして、先頃の近畿医師会連合産業保健担当者の会合においては近畿における共通の産業医研修会講師リストを作成することが取り組まれることになり、目下、奈良県医師会のご努力により進行中である。

何れにしても、今後、産業保健活動において諸種の展開を図るためには日本産業衛生学会近畿地方会の諸先生方のご協力無くしてはありえないこととあります。今後とも格段のお力添えの程、宜しくお願い申し上げます。

「つがやきコーナー」

第75回日本産業衛生学会のメインテーマ、シンポジウム・特別講演のテーマに関する「叩き台」資料

神戸大学大学院医学系研究科
環境応答医学講座環境医学・公衆衛生学

西尾久英

2002年の第75回日本産業衛生学会は神戸で開催されることが決まり、私どもの教室が中心となって学会の企画運営を担当することになりました。そこで、まず、学会で議論すべき今日的課題を選択する目的で、メインテーマ、シンポジウム・特別講演のテーマについて、わが国の産業衛生において中心的な役割を果たしておられる先生方をお願いして、アンケート調査を行いましたところ、30通の回答が寄せられました(2000年12月)。次に、この寄せられた回答と過去の日本産業衛生学会のシンポジウムや講演のテーマを参考にして、メインテーマ、シンポジウム・特別講演のテーマを議論するための「叩き台」資料をつくり、2001年1月26日の企画運営委員会(住野公昭委員長)、3月10日の学術委員会(徳永力雄委員長)に提出しました。この2回の委員会ではメインテーマ、シンポジウム・特別講演のテーマをめぐってかなり熱い議論が行われましたが結論に至らず、最終結論は4月に高知で開催される第74回日本産業衛生学会終了後の学術委員会でお出される見込みです。

「叩き台」資料の概要は以下のとおりです。その他の開催準備の進捗状況については、本ニュースの報告欄で御報告申し上げます。

(1) 調査結果の解析：今回のアンケート調査では、シンポジウムあるいは特別講演のテーマとして「IT(情報技術)」、「メンタルヘルス」がふさわしいという提案が数多く寄せられました。現在「IT」はマスコミでも大きく取り上げられているものの、過去の日本産業衛生学会のシンポジウムや講演のテーマには「IT」という言葉は1回も出てきておりません。一方、長引く不況とそれに伴う雇用リストラの影響が深刻化し、働き盛りの男性の自殺が増加し、これらが国内ローカル問題として認識され、危機意識が高まっていることが分かります。

(2) 提案：近年の社会・経済変化はグローバルゼーションの一語に集約できると思われませんが、「IT」はグローバルゼーションの基盤であり、「メンタルヘルス」はグローバルゼーションの影響下に発生したローカル課題としての雇用リストラに密接に関与しています。そこで、この「叩き台」資料では、グローバルゼーションの「IT」とローカリゼーションの「メンタルヘルス」を結び付ける概念として「グローカリゼーション」がふさわしいとし、これをメインテーマの候補とする提案を行いました。

学会運営につきまして、私どもは一生懸命頑張らせていただく所存ですが、何分にも非力でございます。会員の皆様方の御協力なくしては学会の成功は望まれません。よろしく御協力をたまわりますよう、お願い申し上げます。



「働くということ」 ～労働者の行動変容～

(財)京都工場保健会・健康開発部・情報技術部

古木勝也

北九州で開催された本学会のメインシンポジウムのテーマが「働くということ」でありました。私自身もこのシンポジウムを非常に興味深く聞かせていただき考えるところがあったように記憶しております。

私自身これまで、THPといった健康増進活動の健康指導、健康教育を通じて労働者個人の行動変容ということを中心に生活習慣病という概念が一般的ではない時代より、生活習慣の是正ということに関わってきました。

当時から考えられていたのは、個人の健康に対する意識が向上すれば、よりよいライフスタイルへの行動変容がおこり、医学データも改善するということでしたが、これは我々医療スタッフが勝手に描いた健康への方程式であって、実際にはうまく機能していませんでした。最近ではこうしたアプローチがかえって健康行動への妨

げ、個人への負担になっているとも言われているようです。しかし、統計上では効果もあり、特に食行動に対する栄養指導は非常に有効であったと自身の論文にもまとめさせていただきました。ただ、最近こうした個人の健康行動も「働くということ」にもかなり影響されているのではないかと考えています。健康診断をしても確かに「働くということ」に対するアプローチが十分に出来ているわけではないようです。それよりも、実際に職場でVDTの健康指導をしておりますと、一般的な生活習慣の改善といった健康行動以上に容易に「働くこと」の行動変容がおこり、更に、労働者には肩凝り、腰痛などの症状自身も改善し、作業効率もあがることを実感していただけるようです。

健康診断というチャンネルだけでは、問診票、診察などのツールしかなく、なかなか「働くこと」「働く人々の現場」まではわかりづらいものですが、もうひとつの産業医というチャンネルを使えば、つまり現場で教育をしていくことは、パフォーマンスとしても高く、行動変容も容易におこり、従業員のCS(満足)度は高いので、こちらとしてもやる意義を強く感じている今日この頃です。

「つがやきコーナー」



「学校・地域・職域をつなぐ健康管理」 第一回シンポジウムに参加して

村田製作所・
八日市事業所健康管理室

久米 明子

産業看護職の仲間入りをさせていただき、早2年が経ちました。生活環境の改善や、医学の進歩により平均寿命が急速に伸び、人口の急速な高齢化が産業界にも波及進展し、労働者の生活習慣病が激増しています。そしてこれらへの対応が一層重要かつ避けては通れないものであることを日々痛感している次第です。

先日、草津で「学校・地域・職域をつなぐ健康管理」と題した第一回シンポジウムが開催され参加させていただきました。その中で生涯健康管理における養護教諭や地域保健婦・産業看護職の方のそれぞれの分野での活動を紹介いただき、立場・役割の個性・重要性はもとより、人間の一生の中で年代に応じ身を預ける組織は違っても、職種を越えた生涯を通じての一貫した健康管理が重要であることを痛感し、そしてより緻密性を高めるた

めの各組織間のシステムの連携が、今後の課題であることを再認識しました。また、平成12年より新しい国民健康づくり運動「健康日本21」もスタートし、健康を増進し発病を予防する一次予防に重点を置く対策が講じられ、健康寿命の延伸を図っていくことがますます重要となってきます。そのためには、個人を取り巻くサポートの充実という大きな課題が対峙しています。そしてその中でも、個人の意識改革・行動変容といった、生き方の視点を前向きにサポートできる体制の構築がまず必要となります。すべての人が“生きる力”を活性化するためには、看護職の資質も重要となります。生き生きと輝きポジティブである事が前提で、私達の人生観や物事の捉え方が、人の心を大きく揺り動かす要因になるはずで。人の心を動かすために、また質の高い看護サービスを提供させていただくためにも、知識や情報の交換・研修会等の自己研鑽の場を多く持つことは、それと同等に大切だと考えます。

春の足音が聞こえる陽気が続く中での突然の大雪、そんな21世紀の未来を予感させるようなハプニングの中でも、日ごとに色づく樹々たちからのエールを受けながら、気持ちはいつも春色でいたいものです。



25年前からの近畿産業 衛生技術研究会に集台

中災防・大阪センター

河合 俊夫

平成13年度74回産業衛生学会(高知)総会で日本産業衛生学会・産業衛生技術部会が発足しました。産業衛生学会には以前から2つの部会(産業医部会、産業看護職部会)がそれぞれの専門性を向上させるために活動しています。今学会であらたに仲間入りした技術部会もこれから専門性の向上のために活動をおこないます。この部会のメンバーは主に工学的手法に興味がある人と化学分析技術に興味がある人の集まりであると考えています。部会の発足の経過を見ますと、平成11年4月(72回産業衛生学会、東京)に多くの有志が集まり技術部会準備会大会を開催し、必要性を議論し、平成11年6月に産業衛生学会の理事会に要望書を提出しました。10月には大阪で

第2回産業衛生技術準備大会(テーマ:労働安全衛生マネジメントシステムにおける産業衛生技術者の役割)をおこないました。その後平成12年4月(73回産業衛生学会、九州)では第3回準備・設立総会をおこないました。この時は各方面で活躍している人の立場から、技術部会設立要望の意見が発表され、世話人を選出、部会規則案が検討されました。そして今回学会時におこなわれた総会で正式に部会が発足した訳であります。

近畿地方会では25年前から産業衛生技術研究会が認められています。この研究会は発足時、色々な機関(大学を含む)が当時問題であった鉛中毒の指標であるコプロポルフィリン、デルタアミノレブリン酸の分析技術を改良し、クロスチェックを実施し、その研究成果は雑誌に報告しています。最近では毎年1回開催して25名から30名が討論しています。しかし、この研究会の世話をしてくれる人が少なく苦慮しています。産業衛生学会で産業衛生技術部会が発足したことから近畿産業衛生技術研究会のありかたをもう一度考える必要があると考えます。多くの意見をお待ちしています。

議事録

平成12年度第4回定例幹事会

日時 平成13年2月28日(水) 17:00~19:20
 場所 大阪市立大学医学部学舎 18階会議室
 出席者 藤木 堀口 徳永 圓藤 住野 岡田 原
 車谷 植本 田中 (計10名)
 欠席者 埤田 榊屋 小泉直 小泉昭 平田 河合
 河野 宮上 宮下 橋本 兼高 日高
 (計12名)
 (敬称略、順不同)

事務局 清田 高田

報告および議題

1. 理事会報告
 圓藤理事より、第3回(H13 1.13)および第4回(H13 2.24)理事会報告があった。
2. 学術担当報告
 徳永理事より以下の報告がなされた。
 (1) 第49回近畿地方会総会〔平成13年5月26日(土)〕について
 メインテーマ、特別講演演者が決定し、大阪府医師会に産業医研修会の申請書を提出したとの報告があった。
 (2) 来年4月発行予定の地方会出版図書についての経過報告があった。
3. 広報担当報告
 岡田理事より、平成13年地方会ニュース発行予定について報告があった。
4. 産業医部会報告
 岡田理事より、平成13年度事業計画案として、近畿産業医・産業看護協議会、産業衛生講座について報告があった。
5. 産業看護部会報告
 植本幹事より、平成12年度事業報告および平成13年度事業計画案の報告があった。
6. 50周年記念事業について
 堀口会長より、本年9月29日(土)開催予定の「労働衛生史研究会」について報告があり、平成14年5月の50周年記念事業の資料にするとの説明があった。
7. 75回日本産業衛生学会について
 住野実行委員長から、1月に開催された第1回の実行委員会の報告と3月開催予定の第1回学術委員会および第2回実行委員会について説明があった。
8. 平成12年度決算案および平成13年度予算案について
 事務局より決算の中間報告がされ、平成13年度予算案について審議の要請が出された。

お知らせ

地方会選挙管理委員会

本年度に学会役員選挙が行われます。7月末日までに本部学会費の納入のない場合は選挙に関する権利が行使できなくなります。また、選挙有権者名簿の確認期間が通常8月20日頃に設定されます。詳細は学会誌に掲載される予定です。

近畿地方会ホームページ開設

<http://www5.ocn.ne.jp/~jsohkink/>

推薦図書



かけだし産業医の覚書

—嘱託産業医の業務活動報告—

医学博士 山田誠二

発行/財団法人産業医学振興財団

定価/1,500円(税込み)

産業医として初めて遭遇する産業保健の事例を産業医の目を通して具体的にまとめました。産業医はもとより、保健婦・看護婦などの産業保健スタッフ、衛生管理者にも手頃な事例として役立つものと確信しております。

編集後記

産衛学会近畿地方会ニュースのお手伝いをさせて頂いてから、2年が経過しようとしています。先輩方にお教えを受けることばかりで、私としましては編集委員とは名ばかりの状態が続いております。また、この間に産業衛生の分野の広大さを実感させて頂いております。本号にも、多数の学会・研究会・集会の案内が掲載されております。行政の方々・医師・看護婦・保健婦・労務安全衛生担当者の皆様をはじめ学際的な領域の意見・情報交換などに少しでもお役にたつことが出来れば望外の喜びです。(日高)

編集委員(五十音順)

上田美代子、植本寿満枝、岡田章(編集責任)、
 兼高明生、清田郁子、日高秀樹、宮上浩史

次回発行日 2001年7月15日

次回原稿締切日 2001年5月31日